

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和元年度第1回東村山市立図書館協議会				
開催日時	令和元年6月21日(金)午後2時～午後4時				
開催場所	中央図書館集会室				
出席者及び欠席者	●出席者： (委員) 伊藤浩介委員・小島恵津子委員・石河聡子委員・ 徳永靖子委員・堀渡委員・真野朋子委員・宮川健郎委員 (市事務局) 村木尚生教育長・野崎満教育部長・田中宏幸教育部次長 (生涯学習担当) 新倉図書館長・野口館長補佐・中村奉仕係長・榎本 調査資料係長・並木富士見地区館長・新井秋津地区館長・安保廻田地区館長 ●欠席者：大堀浩委員・黒尾和久委員				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	1名
会議次第	1. 協議 (1) 平成30年度図書館重点事業実施報告 (2) 図書館の役割・あり方について 2. 報告 (1) 令和元年度図書館運営方針および重点事業 (2) 平成31年3月議会および令和元年6月議会より (3) 令和元年度事業予定と報告 3. その他				
配布資料	配布資料 1. 平成30年度図書館重点事業実施報告(案) 2. 東村山市立図書館の利用状況 3. 令和元年度図書館組織図と予算 4. 業務別組織 5. 令和元年度図書館運営方針 6. 令和元年度予算参考資料より 7. 市議会一般質問 8. 財産表並びに事務報告書 平成30年度(市HPで公開予定)				
問い合わせ先	事務局 担当者名 電話番号 FAX番号	東村山市立中央図書館 野口 042-394-2900 042-394-4107			

会 議 経 過

はじめに

教育長挨拶・部長挨拶・次長挨拶・委員自己紹介・新任委員委嘱状交付・職員紹介

1. 協議 平成30年度図書館重点事業実施報告（詳細は資料参照）

（事務局） 平成30年度の図書館重点事業実施報告をまとめた。協議会からのご意見をいただき公表する予定である。

まず昨年度の事業実績を報告する。中央図書館がトップライト（天窗）改修工事のために2月に1カ月間休館した。休館期間中は館内に臨時窓口を設置して、予約本の貸出を行った。休館中には地区館の利用が増えた。状況に応じて使い分けされている様子が見えてくる。ただし年間の図書館全体の貸出数についてはこの休館の影響を考慮しても減少している。

1月には全館で利用者アンケートを行った。来館者へのアンケートだったため高齢者の回答割合が高くなっている。教育委員会に報告をしたところ、重要な資料だと思うので今後も続けてほしいとの意見をいただいた。

重点事業実施報告について

1. 第3次子ども読書活動推進計画の推進

1-1. 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実

（事務局） 『乳幼児への読み聞かせボランティア「図書館くまボラさん」の手引き』を作成した。ボランティアの研修・交流会では、各回のテーマ設定をして議論を深めるようにした。「お父さんと楽しむおはなし会」は盛況だった。

- 全般によくやっている。課題は事業の不足ではなく、事業を継続していくための方策である。

（事務局）ボランティアの安定した補充が必要と考えている。

- 自分自身がボランティア活動をしている。研修を丁寧に行っているのがよい。毎年希望者はいるが、年代に偏りがあり若年層が少ない。関わりたい気持ちがあっても活動するのが難しいようだ。
- 子ども関連の事業はとてもよくやっていると思う。若年層へのボランティアの働きかけとして、赤ちゃんの母親に活動の案内をしても良いのではないかな。
- 研修はどう行っているのか。

（事務局）ボランティア希望者への研修講座を行っている。保護者に保健師的な立場から案内もする。おはなし会に派遣する時に先輩ボランティアと組み合わせることによりOJTのような効果が出ている。活動後には報告書を提出してもらいそれをもとに当人へ助言したり、他のメンバーにフィードバックしたりしている。

- 自分は学校にいるが、ボランティアによる読み聞かせが子どもには効果的だと感じている。学年により反応は様々だが、よく聞いている子どもが多い。学校と図書館との情報共有もよくできていると思う。
- 市としての広報は行っているか。一般市民への参加の促しのため、お父さん関連のイベントを利用できているか。

(事務局) 図書館独自のもの以外では、市のフェイスブックに載せている。

- 学校図書館のイメージについて、一般の人は大学図書館の事は知っているが中学校図書館の事は意識していない。関心の低い人にも知ってもらえるようにしてほしい。
- 「お父さんと楽しむおはなし会」は全国的に珍しい。香川県にお父さんが読み聞かせをする事業を行っているところがあるが、順調というわけではない。いきなり父親に読み聞かせをしてもらうのはかなり難しい。自分自身が読み聞かせを受けたことが無いとやれない。まずは子どもと一緒に聞いてもらう事から始めるのがよい。そういう意味で、当市の事業はアピールポイントになる。他市と情報交換をすると良いのでは。
- 今後回数を重ねて行って、おはなしを読む側に回るお父さんが出てくるのを期待したい。

(事務局) 現状では子どもとお父さんが一緒に楽しんでもらう事を中心に考えている。父子連れでの来館は珍しくなくなったが、イベントへの申し込みは母親からのものが多かった。

- 働き方改革の影響で子育てに関わる父親が増えているのではないか。父親の出番を作る時期が来ていると思う。
- 同じ作品を読んでも父母による違いがある。
- 家庭内で父親が読み聞かせをするのは普通になってきている。ボランティアとして外で行うにはまだハードルが高いが、それも期待したい。
- この方向でさらに充実発展をして欲しい。

1-2. 学校での読書推進に向けた支援事業の充実

(事務局) 学校図書館専任司書の通年配置が7年目となった。中央図書館に配置している学校図書館支援担当が各校を訪問し、書架整理、分類や選書等について相談に乗ってまわっている。課題は勤務日数の拡大と図書館システムの導入である。

- 一人では難しいこともあるので支援担当の目が入るのは良い。勤務日数の拡大は強く要望したい。システムについては、職員室のパソコンが借りにくいため

印刷物の作成も難しい状況にある。図書館システムの導入まで行かなくても、パソコンとプリンタだけでも配置して欲しい。

- 当市では学校と公共図書館の連携がうまくいっていると思う。各校への配置以外に全校を見る支援担当を置いているのが良い。児童、生徒は、年代によって課題が異なってくるが中学校ではどうなのか。

(事務局) 中学生へのサービスとして、おすすめ本リストの作成の他、図書館に来てもらうためにボランティア募集をしたり進学用資料コーナーを設置したりしている。展示の仕方も工夫している。

- 不読率が高くなる世代なので様々なアプローチが必要である。
- 市立図書館から学校図書館へ団体貸出をしてもらっているが、1冊の本をきっかけにテーマを広げてあいまいな依頼をしても対応してもらえのがあるがたい。学校図書館では夏休み前の貸出方法について課題と思っている。
- 引き続き充実させていってほしい。

2. 資料提供の充実

2-1. オリンピック・パラリンピック理解促進事業の充実

(事務局) 継続事業であり、平成30年度は東京都の「スポーツ振興等事業費補助金」を利用して資料を購入し理解促進に努めた。児童コーナーには掲示パネルを設置してアピール度を高めた結果、利用が増えた。一般コーナーでは2カ月ごとにサブテーマを変更して展示を続けているが、回を重ねてテーマ設定が難しくなってきた。

- 今後もしっかりと継続して欲しい。

2-2. 図書館利用に障がいのある方へのサービスの充実

(事務局) 音訳ボランティアについては録音技術のレベルアップ研修を行った。これにより録音図書作成を増やすことが可能になった。視覚障がい者団体からも作成数の増加が要望として挙がっているが、一定程度は応えられるようになった。今後も地域資料を重点的に録音資料化していく予定である。また、データを国立国会図書館に登録して、全国で利用できる状態にしている。

他には、布の絵本を使って「困り感や障がいのあるお子さん向けのプレイルーム」を開催する等、視覚障がい者以外へのサービスを行った。

- 老人ホームへの貸出を行っているか。

(事務局) 先方からの大まかな要望により、図書館で見計らった本を2カ月に1回のペースで貸出する団体貸出を行っている。

- 対象施設を増やす予定はあるか。

(事務局) 依頼があるところへ届けている。施設側の管理体制のことがあり、依頼は増えていない。

- 障がい者サービスはPRが課題だと思う。対象者への直接のPRだけではなく、家族や周りの人等へもアプローチが必要だと思う。
- 利用者側だけではなくボランティアのPRも必要である。

(事務局) 問い合わせへの対応が中心で、積極的なPRはできていない。令和元年度に担当館の富士見図書館が40周年記念事業を行う。そのときには音訳の会のPRをしたい。

- サービスについてのPRだけではなく、図書館資料を使った障がい者自身への啓発も行ってほしい。
- さらに進めて行ってほしい。

3. 多文化共生社会に対応したサービスの充実

3-1. 関連機関・団体との連携促進による多文化サービスの充実

(事務局) 産業祭りの時に市民相談・交流課が行った「多言語おはなし会」への協力をした。事前に先進市の東久留米市へ見学に行く等丁寧に準備をした。

3-2. 関連コーナーの活性化及び資料の充実

(事務局) 英語多読資料を収集して中央館の外国語コーナーを充実したほか、秋津図書館にもコーナー開設の準備をした。このコーナーには本だけではなく、リーフレットも置いている。

- 多言語で紙芝居の上演をしたいとの要望が来て、実際に上演したら盛り上がった。
- 紙芝居は日本固有の文化で、外国でも「KAMISHIBAI」で通じる。
- 多言語訳の絵本がある。いろいろな言語を音で聴くことは良いことだと思う。市内の駅の放送でも英語以外の言葉をよく聞くようになった。これから取り組みを深める必要がある。
- 外国語資料の利用実態はどうか。

(事務局) 市役所の各部署の職員が利用者を図書館へ連れてきてくれるので、直接ニーズを聞く機会があり、利用実態や要望が把握できるようになった。言語ではベトナムやミャンマーの人の利用が増えている。

- その国々の本は買っているのか。

(事務局) 選書のための情報がとても少なく購入が難しいのと、蔵書にしても図

書データの作成が難しいのとがあり購入しにくい。

- 利用者は多いのか。

(事務局) 正確な統計はないが英字新聞と日本語を学ぶための資料の利用が多い印象がある。

- 今後必要性が増していくと思う。引き続き努力してほしい。

4. 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全読書環境維持に努める。

(事務局) 中央図書館が2月に一か月間休館してトップライト(天窗)改修工事を行った。利便性の向上に対しては中央図書館でW I - F Iを設置したり、2階読書室の利用を中学生以上からと年齢緩和を行った。地区館も必要な修繕を行った。また令和元年度に向けて、中央図書館の工事の実施設計を行った。

- 毎年長期休館があるのは本来は望ましくない。やむを得ない部分もあるが、休む時には丁寧な周知と可能な限りの代替策を立ててほしい。
- 代替策は居場所づくりの観点からも検討してほしい。
- 単年度の事業としてはこれで良いが、長期的には建て替えの課題も視野に入っていないと検討しておくべきである。
- まとめとしては、丁寧な対応で維持管理ができていますのでしっかりと続けてもらいたい。

5. 職員体制の充実

業務内容に応じた各種職員研修の充実

(事務局) 職員を講師にしたレファレンス研修など内部研修の他、都立図書館の外部研修に職員を参加させ、後に皆で情報共有をしてスキルアップをした。

- こちらも項目4と同様に単年度事業としてはこれで良いが、長期的な職員体制の維持や充実を考えておきたい。事業の継続発展のためにはいい人材が必要である。
- 年代構成についてどうなっているか。

(事務局) 20代、30代は少ない。司書に限って言うと50代が中心になっている。これは他市も同じ状況である。

- 新規の司書採用が難しいという職員採用の事情は理解するが、市役所との人事異動時に有資格者の配置を図る等の努力をして欲しい。

2. 報告

(1) 令和元年度図書館運営方針および重点事業

前年度と大きく変わらないが、項目について具体的な表現に変更した。今年度も中央図書館で工事による長期休館を予定しているため、代替策を検討している。

(2) 平成31年度3月議会および令和元年6月議会より

図書館や北庁舎の施設について質問があった。

(3) 令和元年度事業予定と報告

3. その他

- 今回で第22期委員の任期が終了する。今期は中長期的な図書館のあり方について検討してきたが、次期はこれまでの意見を踏まえて議論を深めたい。現在のサービスへの取り組みに関してはおおむね肯定的な評価だったが、さらに図書館としてやるべき事を考えていきたい。建物管理については単なる老朽化対策ではなく、今後図書館として整備していくべき、読書環境の整備や質的向上の観点から議論していきたい。

(事務局) 次回は11月を予定している。新任の委員の方がいるので、また地区館を会場にして見学会を催したいと考えている。

以上